

みなさんこんにちは。

改めまして皆様には、荒天の中ご出席をいただきましたことに感謝申し上げます。

さて、本研究会の創設ですが、記録によれば技術・家庭科が誕生して10年を経た昭和47年、神奈川県で初めての関ブロが実施される年を0年と計算した中で数えていくと、今年は51年にあたります。この教科の半世紀は他教科に比べて劇的な変化がありました。

私は総合教育センター勤務時代、この教科の創設以来の変遷について研修講座で若い先生方に伝える目的でまとめたことがございますが、職業的素養を支える教科から、高度経済成長期の産業教育の基礎としての技術・家庭科を経て、男女共同参画社会の構築のため一部共学共修の時代、そして生活を支える教科としての意味づけを経て、現在は産業・社会・家庭生活を送るうえでの見方考え方を育てる教科と、時代や社会背景によって学習指導のスタイルも指導内容も改訂のたびに転換してきた教科です。

現在、ホームページでも発信しておりますが、本県の調査Web委員会により実施されたアンケートへの回答を踏まえたと、目標とする内容への到達を目指すため日夜学校現場で奮闘している先生方の努力で保ってはいるものの、本教科の指導に係る課題は大変大きなものがございます。

そこで、50周年の節目にあたり、研究会として何を発信すべきかと考えた結果、研究会から県内の先生方へ向けて、メッセージを発信することを考えました。

これが本日「研究交流会」と銘打った理由です。これまで、関ブロに向けた研究は諸先輩方も行ってきていましたが、県内の研究発表という形、まして研究会の事務局から技術・家庭科教育のあり方について提言をしたことはありません。それをしなければならない時期に来たと考え、本日拙い内容ではあるものの、現在の技術・家庭科の指導のうえで大切にしたい考え方を発信させていただくことを考えました。この場にお集まりの皆様にとっては、当たり前の内容と思われることと思いますが、人数不足で研究会を開くことにも困難のある市町村の方にとって、ここで発信されたことを、臨時免許で指導している方や、経験の浅い先生方にお伝えいただき、神奈川の技術・家庭科では必ずここを目指してほしいというポイントを共有していただければ、幸いです。

結びにあたりまして、本日はこの悪天候の中、国立教育政策研究所から本県の記念式典及び研究交流会にかけつけていただきました渡邊茂一調査官はじめ、県内行政機関の皆様、また、これまで研究会の振興に尽力してこられた本研究会OB・OGの皆様にもご臨席を賜りました。高いところから恐縮でございますが、研究部会を代表して御礼申し上げます。ありがとうございます。

本日のこの会が、台風通過の中、参加してよかったと思われる内容になりますことを祈念いたしまして、部会長の挨拶といたします。本日はどうぞよろしく願いいたします。